



新年のご挨拶

「教育における ICT」は、格差を解消するための「学びの道具」に



日本デジタル教科書学会
会長 片山 敏郎

明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

教育における ICT の活用を取り巻く昨年 1 年間を一言で振り返れば、「アクティブ・ラーニングと ICT」と言えます。

2014 年 11 月 20 日に発表された、中央教育審議会への諮問で「アクティブ・ラーニング」という言葉が取り上げられてから、このキーワードによる教育の捉え直しが行われ、様々な公開研究会やイベント等でもこの言葉がよく使われるようになりました。その使われ方は多様ですが、能動的な授業観が幼稚園から大学院まで、学びのどの過程でも共通して意識されるようになったことは意義深いことであります。そして、この流れとともにタブレット PC 等の ICT が「教える教具」のみならず「学びの道具」としてもその意義を改めて見いだされ始めたことも意義深いことです。その動きは特に私立の中学校・高校、塾や通信教育で著しく、新たな学びの格差も心配されるところです。しかし、積極的な自治体の首長や教育委員会等のリーダーシップの下、公立でも様々な試みがなされてきています。

ここで私たちが意識しなければならないことは、教育における ICT の活用においては、ICT が一部の学び手が活用するためのツールであってはならないということです。「学びの道具」として意義があるものであるならば、すべての子どもがその恩恵に預かる必要があります。教育格差を助長するものではなく、教育格差を解消するための「学びの道具」である必要があるのです。そのためには、一部のチャレンジングな取組の成果と課題から学び、それを一般化していくための学問的な整理が不可欠であると思いますが、まだまだその取組は十分ではありません。

本学会はこれまでに東京、大阪、新潟、札幌での 4 回の全国大会を開催して参りました。そして今年は 8 月 20 日（土）21 日（日）に京都で 5 回目の全国大会を行います。古都での開催にふさわしく「再考 デジタル教科書 一学習者の多様性を生み出す活用のあり方」と題し、昨今の歩みを評価しつつも積極的に問い直し、より良い未来の教育に貢献できる会を開催したいと考えております。

本年も一層のご支援をよろしくお願いいたします。



第 5 回日本デジタル教科書学会年次大会 京都大会のご案内



実行委員長 上田 昌史

2016 年度年次大会は、小学校発祥の地といわれている京都市で開催いたします。大会テーマは、「再考 デジタル教科書 学習者の多様性を生み出す活用のあり方（仮題）」として準備を進めております。

今回の京都大会では、5 回目の年次大会を迎えるにあたり、設立の趣旨に立ち返り、デジタル教科書・教材の推進、実践、研究活動に携わる研究者と実践者の相互の協力により、デジタル教科書・教材を用いた実践の報告を数多く提言していただき、追究していきたいと考えております。

また、基調講演には、東北学院大学 教養学部 准教授 稲垣忠 先生に初等中等教育におけるデジタル教科書活用の現状をテーマにお話いただく予定をしております。

日程は、平成 28 年 8 月 20 日（土）、21 日（日）、京都駅の隣駅 JR 丹波口駅近くの京都産業大学 むすびわざ館（京都市下京区中堂寺命婦町 1-10）をメイン会場に予定しております。なお、前日の 19 日（金）午後には、同志社中学校・高等学校（左京区岩倉大鷲町 89）にてプレイベントを企画しております。

詳細につきましては、順次ホームページにて告知していく予定にしております。なお、個別の照会につきましては、office2016[at]js-dt.jp までお気軽にお問い合わせください。

「第 5 回 日本デジタル教科書学会年次大会」において、会員の皆様のご報告およびご参加を実行委員一同になってお待ちしております。

2016.1.1



研究会のご報告

本学会主催・共催・後援の研究会について、それぞれ報告させていただきます。

なお、本学会では、研究会等の共催・後援に加えて、研究会開催助成の申請も受付けております。詳細は、本ニュースレター最後のページをご覧ください。

■「さわってみて、考えてみよう！デジタル教材（出版ネッツフェスタ 2015 in 京都）」

ワンコインセミナー「さわってみて、考えてみよう！デジタル教材」を、「出版ネッツフェスタ 2015 in 京都」のイベントの1つとして、15年10月17日（土）13:00～14:30、コープイン京都にて行わせていただきました。御学会理事の久富望先生を講師にお迎えして、（株）富士ソフト様よりタブレットPCをお貸しいただいての開催となりました。

セミナーは、「デジタル端末を用いた『授業』を受けてみよう」「授業の感想を共有してみよう」「将来的に、教材作りの過程がどうなるか考えてみよう」の3部構成。受講者のほとんどが、デジタル端末を使用して学習した経験を持っておらず、貴重な体験となりました。

参加者からは「デジタル教材に関する知見を高められ、また実際にグループワークを経て生徒の気持ちになって、ためすことができました」「模擬授業のような形で実際にデジタル教材をつかうのは初めてでとても新鮮でした。やはり教員の質をどうかえていくかがキーポイントかと思いました」といった感想が聞かれました。



報告者：ユニオン出版ネットワーク関西支部（出版ネッツ関西）

水野 健太郎

■iPad 一台でつくるマルチメディア電子書籍

参加者に電子書籍作成アプリ BookCreator

<<http://www.redjumper.net>> をインストールした iPad を各自持参してもらい、ハンズオン形式で電子書籍（EPUB）を作成していただきました。参加者の座席は3～4人で1組とし、操作のわからないところは互いに教え合う形で行ないました。講師の説明に加え、グループ内での協同学習の機会があったため、こうした機械の操作を伴うワークショップにありがちな、操作がわからなくてついて行けなくなるという現象はほぼ見られませんでした。



ワークショップに使用したアプリ BookCreator は、iPad 一台で、テキスト入力はもちろんのこと、イラストを手描きしたり、iPad のカメラやマイクを使用して動画・画像・音声を収録し、それらを含む電子書籍を作成することができます。BookCreator はテキストが中心でページ数の多い本格的な電子書籍の作成には向きませんが、簡単な操作でマルチメディアを含む電子書籍を作成することができ、学習者が授業で成果物を作る活動に向いています。

ワークショップ当日は、自己紹介をテーマにマルチメディア電子書籍を各自作成していただきました。作成後は2組に分かれて、1組ずつ iPad をポスター代わりにして作成した電子書籍の発表会を行いました。発表会では互いに作成した電子書籍を見ながら活発な交流が行われました。



発表会の後に講師による EPUB に関する基礎的な説明、及び質疑応答を行いました。

なお、当日使用したスライドの PDF は以下のところで公開しております。

<http://www.las.osakafu-u.ac.jp/~kiyohara/WS/20151024/>



報告者：大阪府立大学高等教育推進機構
清原 文代

■講演会「アクティブ・ラーニングのためのタブレット PC の活用はどうあればよいか」

平成 27 年 12 月 5 日開催の講演会「アクティブ・ラーニングのためのタブレット PC の活用はどうあればよいか」には 50 名を超える方々からご参加いただき、大変有意義な会となりました。

札幌市立稲穂小学校の山田秀哉先生からは、たくさんの授業実践例を通して、タブレット PC の具体的な活用方法やアクティブ・ラーニングの考え方についてお話をいただきました。

タブレット PC の活用法は、教師が決めるのではなく、まず子どもたちに使わせてみるのが大切であり、そのようにすると、子どもたちは教師の想像以上の活用をするというお話がとても印象的でした。そして、タブレット PC が自分たちにとって便利なもの、有用なものであることが分かれば、積極的に活用を進めていくということが、ご紹介いただいた授業実践例からよく分かりました。

タブレット PC 等の ICT を活用したアクティブ・ラーニングの例としてご紹介いただいた、小学 5 年社会「未来の自動車づくり」の実践事例は、自分たちで自動車会社を作って、自動車を開発して、それを販売するとしたらどうするかを考えていく活動でした。アンケート調査を基にニーズを調べ、環境や安全にも配慮して開発を進め、開発した自動車のパンフレットを作り新車発表会を行うという活動の展開でした。活動の様子から、児童自身が ICT を活用しながら主体的に取り組む、とてもワクワクする活動であることがよく分かりました。答えが決まっていない、未来のことを考えていくような活動は、子どもたちが意欲的に取り組める活動であるとのお話は説得力がありました。

学習指導要領改訂に関する動向と関連したアクティブ・ラーニングの考え方、また、これからの時代に育成すべき資質・能力と教科の学習との関連についても、詳しくご説明をいただきました。今後の動向に注目しなければならないと感じました。そして、授業のアクティブ化のポイントは、カリキュラムデザイン、授業デザイン、環境デザインの 3 つがポイントであることを教えていただきました。

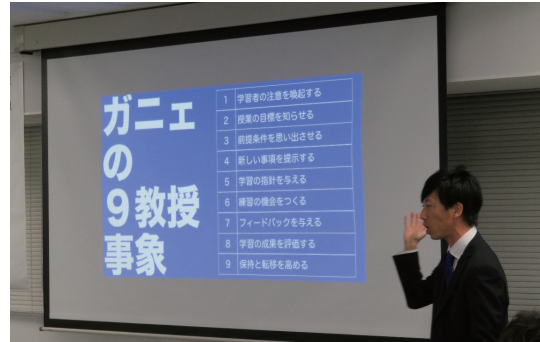




ベネッセコーポレーションの伊藤純様からは、全国小中学校の ICT 活用に関する動向等について情報提供をしていただきました。

小中学校における ICT 機器整備の状況についての説明の後、具体的な授業実践例を基に、普段の授業をよりよくするための道具としての ICT 活用の在り方についてご説明をいただきました。お話の中で、授業における ICT 活用は、誰に・何のために・何を・どのように使うのか、を明確にして活用することが重要であることがよく分かりました。さらに外国の事例を基に、段階を追って ICT 活用のフェーズを進めていく必要があることを教えていただきました。

教育における ICT の活用について、もう一度しっかりと考えてみる貴重な機会となりました。



報告者：富山大学人間発達科学部 附属人間発達科学研究実践総合センター
学習環境研究部門 長谷川 春生

■共催・後援・研究会開催助成について

・共催・後援

研究会等開催の際に、本学会による共催・後援を希望される場合は、承諾基準、申請書類の書式等について、本学会ウェブサイトでご確認の上、申請をお願いいたします。[\(http://js-dt.jp/ 本学会との共催・後援について /\)](http://js-dt.jp/)

・研究会開催助成

本学会会員による主体的な研究会開催を支援し、研究活動の活性化、研究の発展、会員相互の連携を促進すること等を目的に行うものです。会の形式は、研究発表、実践発表、講演会、シンポジウムなど自由です。本学会主催の会として、申請者を中心に企画・運営をしていただきます。研究委員会や事務局も必要な支援を行います。年度の研究会開催助成予算の範囲内で助成を行います。1つの会についての助成額上限は10万円です。助成対象の詳細、申請書の書式等については、本学会ウェブサイトでご確認ください。

[\(http://js-dt.jp/seminar_support/\)](http://js-dt.jp/seminar_support/)